

張込み

2005(平成17)年12月29日鑑賞〈シネ・ヌーヴォ〉

★★★★



監督＝野村芳太郎／原作＝松本清張／出演＝高峰秀子／大木実／田村高廣／高千穂ひづる／宮口精二／内田良平（松竹配給／1958年日本映画／116分）

……野村芳太郎監督がはじめて「松本清張モノ」に挑戦したのがコレ。犯人はきっと女の家を訪れてくる、と信じて張込みを続ける2人の刑事の目に少しずつ見えてくる人間像が興味深い。夜行列車、佐賀、暑さがキーワード……？ 1958年の映画とはとても思えない新鮮さに驚くとともに、今こそ再度こんな執念と人間観察眼をもった刑事養成の必要があるのでは……。

野村芳太郎監督初の松本清張モノ

松本清張は私の大好きな作家の1人で、その題材の社会性と鋭い分析は特筆モノ。しかし、そういう小難しい作風であるため(?)、残念ながら今どきの若者にはほとんど読まれていないのでは……？ 野村芳太郎監督がそんな松本清張の原作に初挑戦したのが、1958年の本作だが、それは何と今から48年も前のこと！ 野村芳太郎監督が松本清張の原作を映画化したのは、①『張込み』、②『ゼロの焦点』(61年)、③『影の車』(70年)、④『砂の器』(74年)、⑤『鬼畜』(78年)、⑥『わるいやつら』(80年)、⑦『疑惑』(82年)、⑧『迷走地図』(83年)の8本だが、この他にも、私の大好きな松本清張作品はたくさんある。その中でも私の大好きな作品が、エキセントリックな女主人公から逆恨みされる弁護士が少しかわいそうな『霧の旗』。1965年に倍賞千恵子主演、山田洋次監督によって映画化され、さらに1977年には山口百恵主演、西河克己監督によってリメイクされている。

「張込み」と刑事魂……

「張込み」とは、刑事ドラマによく登場する刑事にとっての基本的な職務の1

つだが、考えてみればそりゃ大変な仕事。もっともこの映画における下岡雄次（宮口精二）と柚木隆男（大木実）の2人の刑事による張込みは、おあつらえ向きの立地条件にある旅館の2階に宿泊して、向かいの家の奥さん横川さだ子（高峰秀子）の動静をさぐるものだから、下岡が言うように、他のしんどいケースに比べれば天国みたいなもの……？

しかし、どんな状況下でも張込みに必要不可欠なものは犯人逮捕へのあくなき執念。質屋殺しの共犯である石井（田村高廣）は、今は銀行員横川仙太郎（松本克平）の後妻になっているかつての女さだ子に必ず会いにやってくる……。そんな信念をもって張込みを続ける下岡と柚木の刑事魂とは……？

夜行列車の旅は大変！

『張込み』の舞台は佐賀県のある町だが、その張込みを担当するのは警視庁捜査第一課の刑事。1週間という期限を切った佐賀への出張だが、今どきのような新幹線がない時代、煙を吐き出す夜行列車の長旅は大変！ 寝台車でもとれば楽なのだろうが、安月給（？）の刑事ではそうもいかず、二等列車（？）での、座席がいっぱいになれば通路に座り、仮眠をしながらの旅。今どきの若者には想像できないつらさのはずだが、昔はこれが普通の風景……。

一番多いセリフは「暑い、暑い」……

そのうえ当然ながら、クソ暑い真夏であっても列車には冷房などないから、窓から入ってくる風と天井で回っている小さな扇風機のみが頼り。また、旅館での張込みだから、雨ざらしになりながら、あるいは藪蚊にさされながらの張込みに比べれば楽なことは当然だが、その旅館も当然、冷房などなし。せめて扇風機くらいあるのではと思うのだが、なぜかそれらしき小道具も登場しない。したがって、この映画で一番多いセリフは下岡と柚木がいつも言っている「暑い、暑い」というもの。私が9歳の年である1958年といえば、そんな時代だったのだ……。

柚木刑事の目に見える女の二面性……

張込みが2日経ち、3日経ってもさだ子の生活はハンを押したように変化のな

いもの。だいぶ年上の厳格な銀行員である夫から毎日の生活費として100円もらい、子供達の世話をしながら規則正しい生活を送っている能面のような女がさだ子だった。ところが1週間の張込み期限が終わり、いよいよ東京に帰るというその日、さだ子の行動に異変が……。

石井と合流し2人で温泉郷へと出かけるイキイキとした楽しげなさだ子は、到底それまでと同じ人物とは思えないほどの変容を遂げた女となっていた。2人の追跡を続ける柚木の目に、そんなさだ子の姿はどのようにうつったのだろうか……？ 女の二面性について柚木の目線を通じて語りかける、松本清張と野村芳太郎監督の鋭い視線に感心！

犯人逮捕は意外に簡単……

石井は拳銃を持っている。それが張込みを続ける2人の刑事に与えられた情報だった。したがって柚木も簡単には石井逮捕に踏み切れず、石井とさだ子の愛の逃避行(?)を追跡しながら応援を求めるのが、その任務となるのは当然だった。そして旅館に入った2人を見届けた柚木は、到着した応援の手を借りて石井逮捕に赴いたが……。そこで一波乱あると思いきや、フロあがりで気持ちよく歩いているところを押さえられた石井は意外と簡単に……。

今では鉄道マニア必見の映画かも……

松本清張の小説では、列車が大きな役割を果たしているものが多い。時刻表の4分間のトリックを使った『点と線』はその中で最も有名なもの。この『張込み』でも、東京から佐賀へ向かう夜行列車が犯人を追っていくうえで大きな役割を果たしている。私は別に鉄道マニアではないから「D51」程度しか知らないが、この映画に登場する列車を観ていると、それなりに格好いいナと思えてくるから不思議なもの。新幹線のオンパレードとなり、それまで有名だった長距離の特急列車や急行列車、あるいは寝台列車や食堂車が次々と姿を消している昨今、鉄道マニアにとっては、そんな列車の姿を観ることができただけでもこの映画はお宝かも……？

2006(平成18)年1月5日記